

【第3分科会】

ともに育む遊びと学び

～なに？なぜ？ためしてみよう！しらべてみよう！～

指導助言者 山本 房子
発表者 山地菜南子
永宗 愛智
司会者 永宗 千智
記録者 高橋 恵
畑野 沙季

1. 発表の概要

(1) 主題設定理由

昨年度の夏、4歳児が園の近くの浜で遊んでいた際、いくつかの「骨」を見つけた。「これは何の骨だろう？」「調べてみたい」と子どもたちは強い興味を示し、自分たちで図鑑を使って調べたり、自然史博物館の方にお話を伺ったりする中で、それが魚の骨であることが分かった。こうした、生活や遊びの中から生まれる子どもたちの「興味・好奇心・探究心」が、“学び”へとつながっていくのではないかと、そして、そのような経験を重ねることが、就学後の自己選択の幅を広げることにもつながるのではないかと私たちは考えた。

令和7年度の園目標でもある『なに？なぜ？ためしてみよう！しらべてみよう！』を、今回の研究テーマとして設定した。こうした学びは園内だけでなく、就学後も継続して行ってほしいという願いから、小学校の先生方とも共有しながら、研究を進めてきた。

本園では、学区の小学校との交流を20年以上前から行っており、毎年、5歳児が1年生・4年生・5年生・6年生と交流を行っている。保幼小連携会では、情報交換や交流会の計画・振り返りを通して、職員同士のつながりも深めてきた。その中で、園と小学校が子どもの姿や学びに対してもつ視点の違いにも気づくことができた。この気づきから、「園と小学校が共に学び合い、視点をすり合わせていくことが、より良い接続につながるのではないかと感じ、令和5年度からは、園内で行っている研修を小学校やこども園の先生方にも公開し、保育中の子どもたちの姿を実際に見ていただく機会を設けるようになった。また、幼小接続協議会も新たに立ち上げ、互いの思いや実践を伝え合いながら、学びを共有する場として活用している。

今後も、園と小学校が一緒になって子どもたちを育ていけるよう、研究を継続していきたいと考えている。

(2) 取り組みについて

<近隣小学校 A 校との交流・連携>

○A 校との年間計画

4月	6月	7月	10月	2月
・連携会① (交流計画を立てる)	・連絡会 ・保育体験(6年)	・七夕飾り作り交流(5年) ・プール交流(4年) ・連携会②(研修・協議)	・就学時健診 ・秋あそび(1年)	・1日入学 ・連携会③ (振り返り)

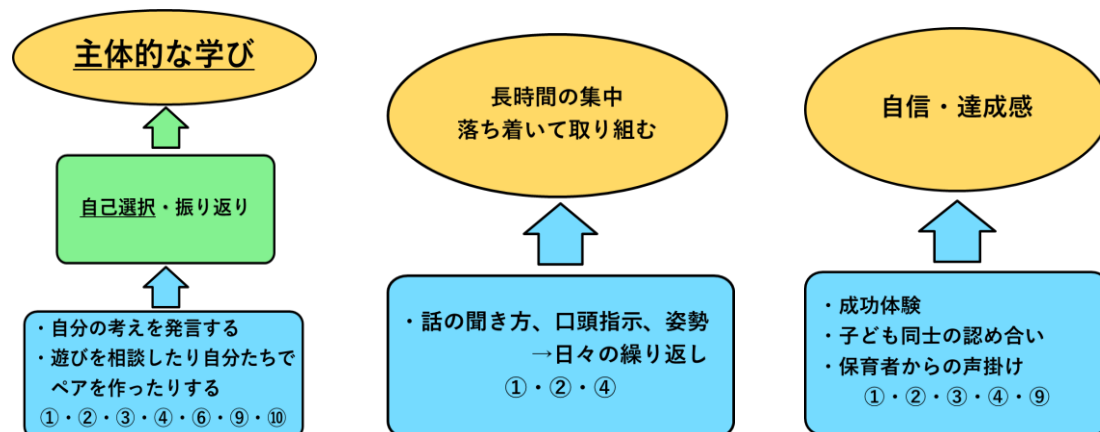
○交流会振り返り

研究に取り組むにあたり、6年生保育体験、5年生七夕飾り作り交流、4年生プール交流、それぞれの活動において、小学校の先生方から「交流前の児童の様子」「交流中の児童の様子」「交流後の児童の様子」、そして「教師からの視点」という4つの観点で、児童の姿や活動の様子についてフィードバックをいただいた。

<園内研修の公開について>

○令和6年度の取り組み テーマ:『音楽あそび』

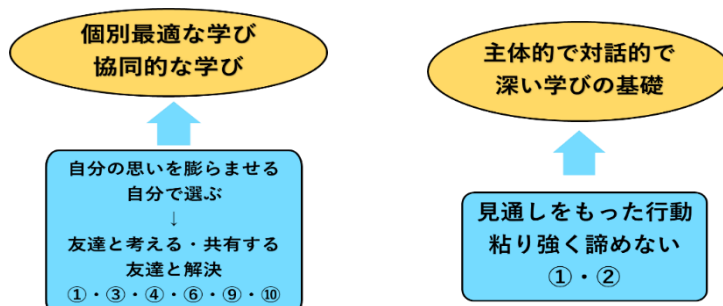
・令和6年度園内研修 小学校からのフィードバック



※表記している数字は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を当てはめたもの

○令和7年度の取り組み テーマ:『興味・好奇心・探究心』

・令和7年度園内研修 小学校からのフィードバック



<令和7年度岡山県私立幼稚園連盟の公開保育研究会について>

○6月に開催 テーマ『幼小接続』 保育内容：6年生の保育体験交流

○協議会議題

① 各園が小学校とどのような交流・連携をとっていますか？

- ・ 保幼小連絡会
- ・ 見学や授業体験を行う小学校訪問
- ・ 園に小学生を招く園内交流会
- ・ 架け橋ミーティングやカリキュラム作成

② 就学に向けて大切にしていることはありますか？

- | | | |
|-----------|---------|------------|
| ★聞く力・伝える力 | ★人と関わる力 | ★生活習慣の自立 |
| ・ 姿勢 | ・ 意欲 | ・ 自信・自己肯定感 |
| ・ 小学校への期待 | ・ 保護者支援 | ・ 認知能力 |
| | | など |

<幼小接続協議会について>

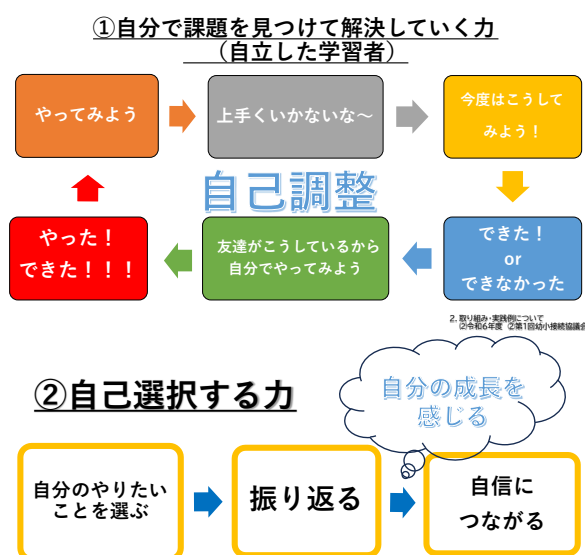
◎園内研修を見た感想を話し合う中で、小学校では「①課題を見つけて解決していく力」「②自分で選択していく力」の2つの力が求められていることが共有された。

①の「課題を見つけて解決していく力」とは、自己調整をしながら失敗を成功へとつなげる学習のループを築いていく力である。「なぜ?」「どうして?」と疑問をもつことが学びのスタートになっていくため、今回のテーマのきっかけとなった「骨」に対して疑問をもち、それを調べたり専門家に直接話を聞いたりすることは就学後の学びに向かう

力に繋がっていくのだとわかった。②の「自分で選択していく力」とは、複数の選択肢の中から自分のやりたいことを選び、学習後に振り返ることで、自分の成長を実感し、自信につなげていく力である。このような自己選択の力を育てるためには、幼児期にどれだけ多様な体験をしてきたかということが重要であることも改めて認識した。

また、小学校からは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての話もあった。

「個別最適な学び」とは、一人ひとりに合った方法で学習を進めることができるため、苦手な分野がある子どもでも積極的に参加し、誰一人取り残されることなくゴールを目指すことが可能になるという考え方である。そのためには、子どもが自分に合った学習方法を選べるよう、様々な調べ方や学び方を用意しておくことが重要である。また、授



☆幼児期の経験＝選択肢の幅・自分で選択できる

業の導入部分で話を聞くことができないと、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」へとつながっていかないため、人の話を聞く力は小学校でも非常に重視されている。

「協働的な学び」については、幼児期から「話し合いをする」ことの大切さが強調された。話し合いが成立するには、子ども同士の関係性が必要であり、小学校でも人の話を聞くことや自分の考えを話す時間を作っている。他の人と話し合い、知恵を出し合うことで、1つの正解を目指すのではなく、様々な立場で考え、よりよい答えを見つけていく力を身に付けていくことが必要である。

◎ファシリテーションを用いての話し合いでは

- ・直感でやってみたり、予想したりすることで、自分で考える経験を積み重ねていくことが大切な学習への一歩となる。
- ・失敗体験よりも保育者の援助を通して子どもたちに気付かせ、成功体験で学ぶ方がよい、その経験の積み重ねが小学校に繋がっていく。
- ・幼児期は不思議だなあと感じる大切である。
- ・活動の目的を明確にしておくことは大切である。

◎連携の振り返り

これまでの連携は主に5歳児を対象として行われてきたが、今回、3歳児・4歳児の姿を実際に見てもらい、成長の過程を知ってもらうことで、連携において大切なのは、5歳児だけでなく3歳児・4歳児からの積み重ねが5歳児に繋がっているということ、園・小学校共に再認識することができた。

保育者が子ども達の様々な姿をとらえ、楽しんでいることが大切で、それがどの子にとっても居場所になる。幼児期は一つの活動にじっくり取り組むための場所や時間にゆとりがあり、幼児期にしかできない大切な経験である。

(3) 振り返りと考察

連携における5つの大切なポイント

① 「対面の大切さ」

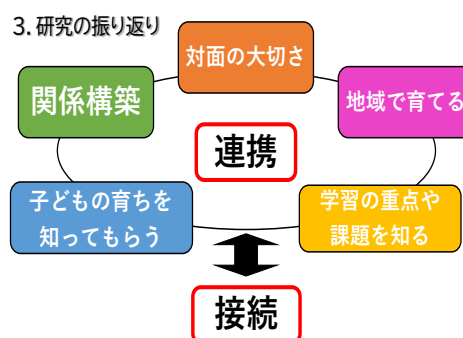
顔を合わせる機会が増え、お互いに親しみをもって関われるようになったことが、連携を深める第一歩となった。

② 「関係構築」

日常的な情報共有が、信頼関係の土台となった。

③ 「子どもの育ちを知ってもらう」

「就学までにどのような経験を積み、どのように育ってきたのか」を理解していただけた。



④ 「学習の重点や課題を知る」

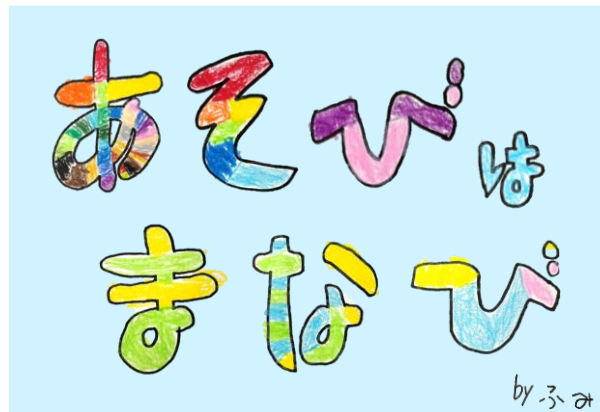
学びのつながりを意識する視点が保育の質にも影響を与えた。

⑤ 「地域で育てる」

幼稚園も地域環境の一つとして、卒園した子どもたちのその後の成長を見守り、交流を続け、支え合っていく存在であることに気付いた。

【“遊び” は “学び” 】

子どもたちは、遊びの中でこそ考え、工夫し、関わり合い、挑戦し、そして失敗を重ねながら学んでいる。その遊びの延長線上に、**学びの基礎が育まれている**ことを、今回の研究を通して改めて実感した。これからも、子どもたちの遊びを大切にしながら、小学校と連携し、子どもたちの育ちをつないでいきたい。



(4) 今後の課題

現在行なっている近隣の小学校との交流会や協議会を継続していくこと、そして、これまでの経験や関係性を土台に、「幼小接続カリキュラム」の作成に向けても取り組んでいきたい。

2. 研究討議

(1) グループ討議

約 100 名の参加者が 14 グループに分かれ、就学に向けて大切にしていることについて意見交換をした。最後に各グループで話し合った内容を、3 つのグループが発表し、全体で共有した。

各グループのファシリテーションについて、後日園内で振り返りを行い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」と照らし合わせながら検討した。

- ・生活習慣①② ・自律、自立、責任② ・規範④ ・命の大切さ⑦
- ・主体性、協同性②③ ・情緒、自己肯定感、自分らしさ①② ・気付き⑥
- ・学び⑥ ・集中力②⑥⑨⑩ ・発見、感動、不思議・わくわく⑥ ・聞く⑨
- ・意欲、チャレンジ⑥ ・礼儀④ ・姿勢① ・言葉、伝える、自己表現⑨⑩
- ・小学校との交流、接続、連絡会、体験⑤ ・見通し、時間①⑧
- ・地域とかかわる⑤ ・情報共有 ・保護者との連携
- ・人間関係①～⑩ ・体験①～⑩ ・経験①～⑩

3. 指導助言

学校法人中国学園短期大学准教授 山本房子先生から「小学校へ何をつなげていけばいいのか？」について研究テーマを元にお話をいただいた。



(1) 幼児教育は何を大切にしているのか。

「幼児が発達に必要な体験を積み重ねていくことができるように教師が環境構成を行うこと」、この幼児教育の基本をもう一度意識してみる。幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期である。そのため、環境を通した教育の実践、幼児期にふさわしい生活の展開、遊びを通しての総合的な指導、そして一人ひとりの特性に応じた丁寧な指導が求められている。こうした保育の中で私たちが大切にしていることを、小学校へしっかりと伝えていくことは、子どもたちの育ちをつなぐうえで欠かせない。幼児期に積み重ねられた体験は、学びの芽生えとなり、小学校での学びへと確実に繋がっている。

(2) 幼児教育と小学校教育は何をつなげるのか。

幼児教育と小学校教育にはそれぞれ異なる特徴があり、教育の方法にも違いがある。こうした違いをなくそうとしたり、合わせたりしようとすると、小学校教育の前倒しや先取りになってしまう。違いは子どもたちの発達段階の違いに基づくものである。両者の違いを正しく認識しておくことが重要である。

小学校教育は目標への到達目標を重視している。小学校側と園側がそれぞれの違いを認識、共通理解しながら、子どもの育ち・学びをつないでいくことが求められている。幼児期の遊びを通して体験してきたことの積み重ねが経験となり、育ち・学びを小学校でも引き継いで資質、能力を伸ばしていく。つまり幼児教育の基本を押さえたうえで保育をしていれば、必ずそれが小学校の教育にもつながっていくのである。そのためには、子どもの学びや育ちに見通しをもつことが大切で、この体験が小学校での学びにどうつながっていくのかを意識していったほしい。

(3) まとめ

幼児の「なに?」「なぜ?」という問いを出発点に、子どもとともに育ちを支える保育の実践が求められる。こうした問いに寄り添いながら、子ども自身が考え、感じ、試すことのできる環境を整えることが、主体的な学びの芽生えにつながっていく。

また、小学校と保育現場がそれぞれ大切にしていることを共有し、幼児期の体験が小学校以降の育ちのどこにつながっていくのかを意識しながら保育を進めていくことが重要である。行政も巻き込みながら、子どもを中心に据えた連携を深めていくことが、保育の質の向上にもつながる。幼児教育と小学校教育が互いの違いを理解し、共通の目標に向かって協働することで、子どもたちの育ちをより豊かに支えていくことができる。